2026年11月９日

各　位

会 社 名　　株式会社ツナググループ・ホールディングス
代表者名　　代表取締役兼執行役員社長　　米田　光宏
（コード番号：6551　東証スタンダード市場）
問合せ先　　執行役員 財務経理本部長　　沼畑　正輝
（TEL. 03-6897-6400）

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2025年11月10日に公表いたしました2026年９月期通期（2025年10月１日～2026年９月30日）の連結業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2026年９月期通期連結業績予想数値と実績値との差異（2025年10月１日～2026年９月30日）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ）	百万円 20,500	百万円 1,060	百万円 1,060	百万円 689	円 銭 82.67
実 績 値 （ Ｂ ）	17,851	892	917	509	61.07
増 減 額（Ｂ－Ａ）	△2,649	△168	△143	△180	－
増 減 率（　％　）	△12.9％	△15.8％	△13.5％	△26.1％	－
（ご参考）前期実績（2025 年９月期）	18,269	877	897	511	60.82

２．差異の理由

売上高は、前期に発生した一時的な特需の終了に伴う反動減や、予定していたM&Aが成約に至らなかったことに加え、RPO サービスにおける既存案件の受注規模が当初想定を下回ったこと等により、前回発表予想を2,649百万円下回る17,851百万円となりました。また、RPOサービスでは、採用活動における求人メディアへの広告出稿等を含む売上規模の大きい PMR（ペイドメディアリクルーティング）から、採用業務の効率化や自社採用力の向上を支援するより収益性の高い OMR（オウンドメディアリクルーティング）への顧客ニーズの変化に対応し、サービス転換を進めました。この移行が当初想定以上に進展したことは収益性の改善に寄与した一方、PMR と比較して売上計上額が小さくなるサービス構成となったため、売上高が当初予想を下回る要因となりました。

営業利益および経常利益は、PMR から OMR への移行に伴うサービス構成の変化ならびに AI 等の活用による業務効率化を通じて収益性の改善に取り組みましたが、売上高の減少による影響を補うには至りませんでした。この結果、営業利益は前回発表予想を 168 百万円下回る 892 百万円、経常利益は同 143 百万円下回る 917 百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益および経常利益が前回発表予想を下回ったことに加え、特別損失として減損損失 98 百万円を計上したこと等により、前回発表予想を 180 百万円下回る 509 百万円となりました。

以　上